

平成 20 年 8 月 5 日

第 1 回科学技術者倫理教育ワークショップ (FD 研修)

参加者各位

金沢工業大学科学技術応用倫理研究所

所長 札野 順

## ご連絡およびお願い

拝啓

金沢では厳しい暑さが続いておりますが、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は第 1 回科学技術者倫理教育ワークショップにご参加のお申し込みをいただき、誠にありがとうございます。関係者を代表して御礼申し上げます。

本ワークショップは、昨年まで開催した過去 3 回の EAC ワークショップで得られた知見を基に開発してものでございます。今回は特に、具体的なマイクロ・インサーション事例の開発および教育・研修用のミニ・ケースの作成に焦点を当てたワークショップとして企画いたしました。そこで、ご参加いただく方々にいくつかお願いしたいことがございます。次頁の事項をご確認いただき、必要なお準備をお願い申し上げます。

8 月後半の金沢は厳しい暑さが予想されます。また、参加者の方々が自由に議論できる雰囲気をお願いいたしますので、カジュアルな服装でご参加ください。

暑さの厳しい折ですので、くれぐれもご健康にご留意ください。金沢でお目にかかれることを楽しみにいたしております。

敬具

# 第 1 回科学技術者倫理教育ワークショップ参加者へのお願い

## マイクロ・インサージョン関連：

- ・ マイクロ・インサージョンとは、通常は倫理とは関係がないと考えられるような工学・技術上の問題に、適度な倫理的要素あるいは社会的文脈を与えることにより、技術と倫理の関係を考察できるようにする教育手法です。（添付の資料をご参考にしてください。）
- ・ 教育機関関係者の方々のご自身の専門分野（工学系、理学系、その他）でご担当になる可能性のある科目（例えば、「熱力学」）で使用する教科書から典型的な演習問題を 1 題選び、この問題に社会的な「文脈」などを与えることにより、倫理的な問題を考慮できるように改変を試みてください。また、企業にお勤めの方々には、ご自身のお仕事上の専門領域で、部下の方を指導なさる際の研修用教科書・資料で、同様のことをお願いいたします。
- ・ これをグループ内で紹介（5 分程度）できるように概要を A4 版 1 ページ程度にまとめてください。

## ミニ・ケース関連：

- ・ 技術者倫理教育・研修を行う上で、ジレンマ問題や線引き問題を実際に考えてみるのが重要であると考えられています。そのためにできるだけ具体的な状況を設定したケース（事例）を提示し、インストラクターが最終的な解決案を提示することなく受講者に討議してもらう手法、いわゆる、ケース・メソッドが使われます。
- ・ 今回のワークショップでもケース・メソッドについてかなりの時間を使っていますが、皆様にもケース・メソッド用の小さいケース（ミニ・ケース）を作成していただきたいと思います。ご自身がかつても興味を持っていらっしゃる領域で、A4 版 1 ページ程度の分量のケースを作成してください。（既存のケースを改変していただいても結構です。）その際、以下の点にご注意ください。
  - 主人公（意思決定の主体）が、技術者であること。
  - 複数の価値（安全、コスト、効率、納期、法令遵守など）が対立あるいは並立していること。
  - 複数のステーク・ホルダー（利害関係者）が存在すること。
  - できるだけ具体的な状況設定であること。
- ・ これをグループ内で紹介（5 分程度）できるようにまとめてください。

なお、資料のファイルなどは受付時にご提出をいただければ、事務局で印刷をいたします。事前にお送りいただいても結構です。

連絡先

E-mail：[aces@wwwr.kanazawa-it.ac.jp](mailto:aces@wwwr.kanazawa-it.ac.jp)

住 所：〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇が丘 7-1

金沢工業大学国際交流室内 EAC ワークショップ事務局

電 話：076-294-6725

FAX：076-294-6718

以上